

---

# 校内らぶ

結椅

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

校内らぶ

### 【著者名】

N2484E

### 【作者略名】

結椅

### 【あらすじ】

田向のドキドキハッピーライフ  
まさか私が先生に恋をする  
なんて・・・

## 第1話 地歴公民権の由來（漫畫セ

こんにちは。2回目のお話です。  
文才力がないんで、もうトントクを  
ですが、最後までじうかじゅうくり  
見ていくください（・・）。

## 第1話 地歴公民室の出会い

ダメっていわれたら、

ほしくなっちゃう。

どうしてこうも人は

欲張りなんだらう

『ね～日向ひなた知つてる～？』

幼稚園のころからずーっと一緒に

桃ももが言った。

私は、教室教室内移動の準備中。

桃は私の返事を待つ前に話を続けた。

『3組の代々木せんせーのはなしーー。』

3組の代々木・・・?

私がストップしていると、

『ほおーらつーーあの25歳前後の

いつも腰パンしてる先生ーー。』

「・・・あー。アレね。あの先生！

代々木先生がどうしたの??.』

余裕のない性格だからなのか、

隣のクラスの担任さえ覚えられない・・・

『その代々木先生がね～・・・・』

話の間をためる桃・・・・。

『芽衣ちゃんと・・・・付き合つてゐ

りしいよ～？』

・・・・は？

「え、付き合つてゐつて・・・・

先生と生徒でしょ・・・・？？』

私の頭は混乱状態。

平々凡々な私は

付き合つ=同級生又は先輩、後輩

となつてゐる。

先生と付き合つとか・・・っ

かかかか考えられないつつ！――！――！

『・・・おへい。日向あへ！』

ああありえない・・・！――！

バシツツ！――！――！

「ついたいいつ！――！」

私が、なんどよ~、みたいな田で見ていると

『自分の世界に入らないの?...』

ビクッ!

「・・・はい。すみません。」

そんなやうひとりのなかたどうついた教室・・・

地歴公民室

『あ~あ。地歴、好きじゃないんだよなあ。』

桃はどちらかといつと理数系。

「ん~。でも出来るじゃん。桃は。」

好きじゃないだけで、嫌いではないらしい。

『・・・そりあ、いい点ひとつとかないと

一人暮らしきなくなるもん。』

窓側の席を確保して座る・・・

「あーそうだったね・・・。

桃、頑張ってるもんね・・・』

私もその横に座った

桃の家族は桃ラブらしい。

私は会つたことないからわからないんだけど。

家に彼氏なんかを連れてくると

骨の壺の奥のほうまで聞かれるらしい・・・

いつやって聞いてたらちょっとびり恐ろしいんだけど、

私的には羨ましかつたり・・・

ガラッ

そんなことを考えていると

担当科目の先生が入ってきた・・・

ザワツ・・・

一気に教室がざわめきました。

特に女の子たち・・・

『・・・ちよ、田向みてつー。』

・・・え？

女の子たちがざわめいたのも納得する・・・

教卓の上には20歳代くらいの、男の先生

でも、若いだけでは騒がない・・・

そう、その先生は、マンガに出て来るような

ピカピカオーラのイケメン教師だった・・・

第一話 地歴公民権の由來（後書き）

## 第2話 イケメン先生

これは運命か、必然か

『ちょっとお、カッコいいつ！』

桃が言うのにも納得だ。

ホント、カッコいい。

『オッホン。』

イケメン先生が咳払いをひとつした。

『えー、今日から約6ヶ月ほど、君たちの

地歴を担当することになった、

平山 潤平 だ。

ちなみに24歳。独身。よろしく。

何か質問はないかー?』

すばやく口を紹介だ・・・

『はいはーいっ!...杉浦せんせーはまだつしたんですかあ?』

クラスの男子が聞いた。

ちなみに杉浦先生は、地歴担当の40代の女の先生だ。

『あ～杉浦先生はなー、体調不良でしばらく

お休みだ。そのかわりに来たのが俺。』

へ～。杉浦先生体調不良か・・・

『まあ、さうゆうわけで、杉浦先生の体調が

よくなるまでの間、俺がビシビシ、

授業していくんですねー。

つてことで教科書36ページ開いてー。』

それから先生は、淡々と・・・でもわかりやすく  
ときには冗談も踏まえながら

授業をしていった・・・

キーンゴーンカーンゴーン・・・

授業の終わりを知らせるチャイムと同時に

『委員長一喝。令。』

先生が言つ。

『・・・きつ～つ氣をつけえ～れ～』

『あつがとうございました。』

号令が終わると同時に、先生の周りには

生徒でいっぱいになつた。

『せんせい、まじかっこいい！』

『授業ちよ～わかりやすいよつー！』

『ちょ、先生！…家どこー？遊びに行きたい』

先生大人気。

『平潤大人気だねえ。ま、かつこいいしい』

桃は先生を見ながら言った。

「…・・・そだね～、って、平潤つてなに？」

『も～やあね～、先生のことよお？平（山）潤（平）だからや～』

なるほど～・・・。

私は先生をみながら納得した。

・・・つと、先生と目が合つた気がした

「・・・・？」

『ひ～なたつ！…早く行こ～？』

桃の声で、ハッとした。

もう一度先生を見たけれど、今度は違う方を

見ていた・・・

・・・勘違いかな。

『田向あ～～～！～～』

「をおーじめん、すぐ行く～！」

思えばあの時あの瞬間・・・

私は先生に恋を抱いたのかかもしれない。

•  
•  
•  
•  
•

### 第3話 気持ち発見。

何気ない毎日だった・・・

これからも変わらないと

思っていた

その日、私はちよっぴり沈んでいた。

朝からボーッとしてるもんだから

何度も先生に名前を呼ばれる・・・

そうして、

『聞いてますか？授業。』

だって・・・。

私は一応、

「はい・・・。すいません。」

て言つてまた席に座るんだけど、

それから次の授業もそのまた次の授業も・・・

今日は厄日だと悟つた。

授業でボーッとあるのなんてこつもの」と。

なのになんで今日に限って……??

『田和い?・どうしたの?』

桃だ。

「……どうしたもいついたもなによ。」

あはは、と桃。

『いつもボーッとしてたのにねえ。

……なに考えたの?』

・・・なに考えていたの・・・？？

「なに・・・考へてたんだうつね・・・？」

一瞬、ほんとに一瞬だけ・・・

平山先生のことが脳を掠めた。

ホント、何考へてるのかな、私。

「・・・桃？私、ちょっと有り得ないかも。」

気づいたときには、もう手遅れだったのかもね。

「私、平山先生のこと……考え、てた……」

『……え?』

あなたは知つているかな?

私があなたを想つたことを。

## 第4話 先生への恋

『気がついてしまつたら止まらない。

わざと忘れない、それが恋

『え・・・なに? マジで? 本気で? ?』

桃はかなり焦つてる・・・

そりゃそりだよね。

生徒が・・・先生を好きだなんてね。

「・・・おかしいね、私・・・。」

でも気づいてしまった。

『うつむきなまこ、この気持ち……』

『……………』

「え?」

『ここがおーーー回、素敵つひーーー』

す、素敵!?

『いいじゃん、平瀬つーーー見る回あるよーーー回ーーー』

「・・・え、そりですかい？」

びっくりだった。先生を好きになつた私を

応援してくれていること」・・・

『よおじー。いつもながらやへ行動よつーー。』

とか言つて動いてくれる。

「・・・つて行動！？」

『ナウだよーーとつあえず、メアドだねえーー。』

メアド！？！？

「ニヤニヤニヤニヤー……無理だしつつ……」

無理無理無理無理無理

メアドとか、ありえない！

『なにこいつやんてんのー普通の子でもメアドは聞こへただよー』

そんなこと言われても・・・

「好きだ、ってわかった以上、顔みてなんて話せないよお・・・

『うーん・・・じょががないなあ、んじゃ、2人で行こつ？』

そんで、2人で聞こつ？』

そ、それなら・・・

「・・・うん、桃、ありがとうございました・・・。」

この、気持ちに・・・

先生? 私、気づいてしまいました・・・



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2484e/>

---

校内らぶ

2010年10月28日04時21分発行